

手工芸品生産と女性の自立

環境・国際研究誌 2001年4月号 遠藤絵理子

実際にバングラデシュの生産者と出会い、話しをした事によって手工芸品生産がもたらす効果の新たな発見がありました。女性の自立は日本の女性にも共通する課題です。女性が仕事をする事で得られるものは、数字や物では計れない精神的な充実感と成長があると考えています。

手工芸品生産

私が「シャプラニール＝市民による海外協力の会」で働き始めて丸2年経ちました。その間、バングラデシュとネパールの女性が制作した手工芸品の輸入販売を担当してきており、担当の一人としてバングラデシュとネパールに出張し、生産者の女性に会う機会に恵まれました。今回は特にバングラデシュの生産者との出会いを通して考えたことをこの場をおかりして個人の意見として述べさせていただけたらと思います。

バングラデシュやネパールでは教育を受けていない女性が仕事を得ることはまだまだ困難な状況にあります。また男性も同様に、家族を養っていくために必要な安定した収入を得ることが難しく、経済的に貧しく不安定な状況で生活をしている家族が多くあります。そのような状況の中、シャプラニールは約25年前にバングラデシュの農村に住む貧しい女性達の「収入向上」を目的として彼女達の作った手工芸品を日本で販売し始めました。その後、シャプラニールがネパールで農村開発事業を始めた際、同国からも手工芸品の輸入を行なうようになりました。現在シャプラニール手工芸品部門の主な目的は当初から基本的には変わらず、貧しい女性の「収入向上」です。輸入販売を開始した時は、直接シャプラニールが女性達に手工芸品生産を

指導し、日本で販売するという方法をとっていましたが、現在は現地の生産団体を介して輸入しています。生産者はそれら生産団体に納品し、賃金を受け取るという仕組みです。この方法をとることによって、生産者は間接的により多くの販路や安定した仕事を得ることになります。また、生産者の一部は生産団体の生活向上プログラムのグループメンバーであり、手工芸品と賃金のやり取りだけではなく、識字教育や保健衛生プログラムにも参加しています。このように現地の生産団体を介すことによって、「収入向上」だけではなく「生活向上」にも貢献することになります。

生産者

ここで、1人の生産者の例を紹介します。ファテマ・カジさんという女性で、彼女はバングラデシュのYWCAという団体で17年間仕事をしてきました。一週間に一度、自宅からYWCAの事務所があるダッカまで約2時間ほどかけてバスを乗り継ぎ、できあがった商品を納めに来ています。仕事はとても面白いと思ってやっているという事です。収入は月に平均3,000タカ(1タカ=約2.5円)程ですが、村の公務員の初任給が月に約3,000タカだという事を考えると、決して低い給料ではありません。

「私は 17 年前からこの仕事をしてきました。最初は近所の人が YWCA から持って帰った仕事を手伝っていたのですが、7 年前からは私も YWCA と直接仕事をしています。夫は長い間綿工場で働いていましたが、数年前にその工場が閉鎖され、それ以来失業しています。もし、私

くれました。

意識の変化

シャプラニールの事務局スタッフとなった当初、私は手工芸品の販売は生産者の「収入向上」に貢献するものだと考えていました。もちろん



が何の仕事もしていなかったら本当に大変だったと思います。でも、私が仕事をしていたので、共倒れにならずにすんでいます。YWCA では、私達に貯金するように勧めてくれますので、数年前から貯金をしています。このお金は、仕事が出来なくなったときに使おうと思っています。子どもがいないので、自分のためにしっかり働かないとね。日本人へのメッセージ？私達に注文をください。仕事があれば、もっと収入を上げる事ができます。」とファテマさんは語って

それは事実ですが、実際にバングラデシュの生産者と出会い、話しをした事によって手工芸品生産がもたらす効果の新たな発見がありました。それは、彼女達の「意識の変化」です。

そもそもバングラデシュではイスラム教や文化的慣習から、女性が外に出ることが少ないという風潮があります。ここ数年は縫製産業が盛んになり、女性の雇用を生み出していますが、その機会も都市に集中するものにとどまっています。2000年世界子供白書によると1995年の

バングラデシュ成人識字率は男性が 49%であるのに対し、女性は 26%にとどまっています。この数字をみても、まだまだ女性が弱い立場に置かれていることが読み取れます。教育を受けていない女性の場合、特に農村部では仕事を得ることが困難であり、家計を夫の収入に頼らざるを得ません。その夫の収入さえ、不安定で少ない額だという事が多いのです。ところが、手工芸品の仕事によって収入を得られるようになると、女性の状況が変化していきます。例えば手工芸品の生産による収入が加わることによって、子どもが学校に通えるようになったり、家の修理をしたりといったことに計画的にお金を使うことができるようになります。また、夫が失業した際も女性が仕事をしている事で共倒れになる事を避ける事ができ、またその使い道について女性が意見を言えるようになるといった変化です。仕事を始める前は、家族に意見を聞いてもらう事はなかなか無かったという場合も、収入を得るようになって、自分の意見に家族が耳をかしてくれるようになったと言う女性達は多くいます。このような変化は自分の生活に自分の考えを反映させ、自分の人生に主体的に関わっていくという実感を伴った変化だと考えています。

パートナー

生産者の女性たちが仕事をしている姿は、真剣そのものです。特に出来高払いの場合は、少ない時間で多くの商品を作る努力をするのでなおさらです。ただ、そこでは、単にお金を得るために働くだけではなく、働くことによって生じる責任を感じ、同時に充実感を得ているという印象が残りました。仕事として真剣に手工芸

品を作る女性の姿は、販売する側の私に次のように言っているようでした。「私たちはこうやって注文に応じて確実に仕事をしています。あなたは日本で確実に販売してください」と。一方的に物や知識を与えるトップダウンの援助ではなく、また、かわいそうだからと同情して手を差し伸べるチャリティー的なアプローチでもなく、生産した商品に対し、その完成度や手間、量等によって適正な賃金を支払う関係がそこにはあります。間に現地生産団体を介していますが、生産者と私は生産と販売という仕事を通じ、パートナーとして存在しうるということを実感しました。

もちろん、パートナーとして存在するために、双方ともまだまだ問題や課題があることは否めない事実です。お互いの意識を高めあうことが必要ですし、現地の生産団体を介している以上、それらの団体の信頼性も常に問うべきポイントです。信頼性を追求する我々の関わり方も重要です。また、手工芸品の生産という仕事だけではいずれ飽和状態に達してしまうという事。また、収入が上がる事だけで生活が豊かになるとは限らないという点です。ただ、個々のレベルから考えると、女性の自立や意識の変化という点で、双方にとって効果がある試みだということを改めてここに述べたいと思います。

女性の自立は日本の女性にも共通する課題です。女性が仕事をする事で得られるものは、数字や物では計れない精神的な充実感と成長があると考えています。バングラデシュの女性が働く姿を見る事で、「仕事」が人間の意識に与える影響を改めて発見し、日本で働く自分自身への課題と励ましを得ることができました。